

令和4年度「学術変革領域研究（B）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	22B102	領域略称名	身体記号学
研究領域名	言語相互行為における身振りや手話を対象とした身体記号学		
領域代表者名 (所属等)	坊農 真弓 (国立情報学研究所・情報社会相関研究系・准教授)		

(応募領域の研究概要)

本領域研究は、会話における身振りや手話といった、記号としての特徴が未だ明確ではない事象を研究対象に、言語学・言語哲学分野で議論されてきた既存の記号論を「マルチモーダル記号論」として展開することを目的とする。領域全体として、音声のみならず身振りや手話を方法論的・工学的に「モダリティ横断的に扱うこと(モダリティ横断)」を目指す。成果として、マルチモーダル記号論に基づくアノテーションが付与されたインタラクションデータをコーパスとして整理して関連研究コミュニティに広く公開し、マルチモーダル対話翻訳の技術開発に我々の理論を生かす道筋を明確にする。我々は以上の研究活動全体を「身体記号学 (Embodied Semiotics)」と命名し、文理融合型の学術変革領域を創り出す。

(審査結果の所見)

本研究領域は、身振りや手話の言語的研究を「マルチモーダル記号論」として開拓する独創的な研究領域である。会話中の身振りや手話を人文系の研究者が担い、マルチモーダル翻訳システムに繋がる画像処理等を理工系の研究者が担い、それを総括班が統合する明快な組織立てとなっている。研究成果を公開することで、更なる展開も期待できる極めて優れた研究である。